

11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなどは赤ちゃんの手の届かないテーブルの中央に置きましょう。

赤ちゃんは何でもつかめるようになると、熱いものにも平気で手をのぼし触れてしまいます。お母さんが食事の準備中、ちょっと目を離れたすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや鍋を触ったり、お母さんが飲もうとしたコーヒーをひっくり返してやけどをしてしまう事故があります。



また、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを扱うのは危険です。抱いている赤ちゃんが動いたり、動かなくても誤ってカップが手から滑って落ちたりしないとは限りません。熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置き、赤ちゃんを抱きながら食べたり運んだりするのはやめましょう。

12. テーブルクロスは使用しない。

テーブルクロスをかけていると、赤ちゃんが食事中引っ張って、熱い食べ物や飲み物がこぼれてやけどをしてしまったり、つかまり立ちをするときに引っ張って、コップやお皿、ジャムのビンなどが落ちてきて打撲をしてしまいます。



子どものうちは、テーブルクロスの使用はやめましょう。

13. アイロンは使用後、赤ちゃんの手の届かない所に置いて冷ましましょう。

使い終わったばかりのアイロンの温度は90度です。使用時だけではなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましましょう。



14. ストープやヒーターは赤ちゃんが触れないようにガードをして使用しましょう。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。ストーブの近くに寝かせておいて、寝返りをしたときに手があたり、ヒーターの噴出し口に指をつけたり、転んでストーブにぶれてしまったりします。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。



熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。

ストーブの上にやかんは置かないようにしましょう。

また、体温より少し高いくらいの温度でも、長時間あてたままにすると低温やけどを起こすことがあります。赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないようにして寝かせましょう。こたつや電気カーペットには長時間寝かせないようにしましょう。

15. ドアのちょうつがい部分には指が入らないようにガードをしましょう。

ドアのちょうつがい側に指をはさむと大きな圧力がかかるため、指を骨折したり、切断してしまうような大きな事故になりかねません。赤ちゃんの小さな手はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまうので、特に玄関などの重さのあるドアのちょうつがい部分には注意が必要です。



ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手の位置を確認しましょう。ドアのちょうつがい側には防止グッズなどでカバーをし、ドアを

開けておくときは、風で急に閉まらないようにドアストッパーなどで固定しましょう。

16. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにガードをしましょう。

テープが出たり入ったりするビデオデッキの挿入口。赤ちゃんがおもちゃを中に入れて遊んだり、つい手を入れてみたくなる場所です。手を入れて抜けなくなったりしないように、カバーでおおえば手をはさむ危険が防げます。

テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口には、ガードをしておきましょう。



17. かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをしておく。

まな板の上に置いてあった包丁を取ろうとして足の上に落としてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったり、赤ちゃんはこれから大人が使っている物に興味を持ち、真似をして自分でも使ってみようとしてします。

刃物を使用したらすぐ収納場所に片付ける習慣をつけておきましょう。



18. 入浴中の赤ちゃんを一人にしたままにせず、入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。

入浴中、支えなしに座れるようになったばかりの赤ちゃんを一人にして着替えを取りに行ったり、電話に出たり、お母さんがシャンプーをしている間、浴槽につかまり立ちをさせておいたら、よじ登って溺れたり、浴槽の外にいるからといって安心できません。

浴槽のふたは入浴する直前にはずし、入浴中の赤ちゃんからは目を離さないようにしましょう。入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。



19. 一人で浴室に入れないようにドアにカギなどを付けておきましょう。

じっとしていることが少なく、一人でもよちよち歩いていってしまう1歳ごろ。掃除をしようとして浴室のドアを開けておいたら、知らないうちに浴室に入り、浴槽をのぞきこんで溺れてしまう事故がおきています。

浴室のドアは開けっ放しにせず、カギをかけて自由に出入りできないようにしておきましょう。



20. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しましょう。

赤ちゃんを抱いて車に乗るのは危険です。車が急に止まったり、衝突すると、腕から飛び出し、衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の方では支えきれません。

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。

購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。

